

(13) WG 21：ライフサイクル アセット マネジメント(LCAM)

部 会 長：P. Spyridis（ドイツ）

副部長：H. Adden（ドイツ）

担当理事：砂金 伸治（日本）

今年の主な議題は、①ガイドラインの作成状況と今後の活動方針、②他グループとの連携、③次期役員の選出であった。

(a) ガイドライン作成と今後の活動方針

現在、インフラ所有者や管理者向けに、トンネルのライフサイクルコスト、環境負荷（カーボンエミッション）、維持管理計画などを網羅したガイドラインの作成を進めている。過去の事例や知見を統合し、実用的な指針の提供が目的である。また、ガイドライン完成後の新規テーマについても議論された。特に「フューチャープルーフ（将来を見据えた設計）」の概念に注目し、将来の技術革新（電気自動車や水素自動車等）や気候変動による異常気象に備えた設計・維持管理のあり方が提案された。さらに、長寿命化やメンテナンスの容易さを考慮した空間設計、設備更新時の可用性確保なども重要な課題として挙げられた。

(b) 組織再編と他グループとの連携

ITA の組織再編に伴い、WG6 との統合案が出されていたが、強制的な統合は行わず、緊密な連携（ジョイントコラボレーション）を図る方針が確認された。今後は定期的な情報交換や共同での文書レビュー等を通じて協力していく。

(3) 部会長選出と次回会議

次期役員の選出が行われ、全会一致で Panos 氏が部会長に再任された。副部長については、参加者の承認を得て、オンライン参加の Hans 氏（ギリシャ）を選出した。次回会議は、ガイドラインの素案について、2026 年 7 月 9 日の午後 1 時（ベルリン時間）にオンラインで開催することを決定した。

（文責：富田哲平（(株)エイト日本技術開発））

WG 21 の活動状況はこちらから

[Working Group 21: Life Cycle Asset Management](#)